

12月18日（月） ミラノ市

## フィエラミラノ

視察最初の訪問先は、ミラノ市郊外にある国際見本市会場、フィエラミラノである。大阪市は、国際会議誘致の取り組みを進めるとともに、インテックス大阪（大阪国際見本市会場）のあり方について議論が進められており、その参考とするため視察するものである。

まず、会議室にて施設の概要等について説明を聴取したのち、会議場やパビリオンなどを視察した。

### 【説明概要】

フィエラミラノの敷地面積は100万㎡。27か月で建築し2005年完成、2006年にオープンした。現在世界3位の大きさである。

他の見本市会場では、最初の建物建築後、追加建築のケースが多いが、フィエラミラノは最初からこの広さである。

ミラノの見本市は1920年に始まった。まず、ミラノの中心地に見本市会場（ミラノシティ）ができ、2000年ごろから新たな建設の必要性が議論され始めた。世界レベルの経済中心地としての役割を果たすには、現状では小さいという問題意識があった。

元々、この地は石油コンビナートであった。現在、周囲には有名な建築家による建物が多くあり、著名な建築家ドミニク・ペローによるホテルなどがある。

フィエラミラノは、イタリア経済において重要な役割を担う。現在、65のイベントを行っている。毎年4月に、一番有名な「サローネ・デル・モービレ」という、家具とデザインの見本市を開催しており、ほとんどすべてのパビリオンを使用する。

フィエラミラノ社の従業員は現在700人。4つのグループ（経営、イベントと会議、会議以外の見本市、広報・会場設営）で構成された株式上場会社である。大半の株式はフィエラミラノ財団が所有しており、財団が株式会社に運営を任せている。会場は、会社が財団から年間で賃借している。

### 【質疑応答】

Q：財団について詳しく教えてほしい。



コンGRESセンター内会議室での説明聴取の様子

A：理事会はミラノ市、ロンバルディア州、国、企業など、29 の機関から任命された議長及び 25 人のメンバーで構成されている。1922 年に財団の前の組織である会社ができ、100%国が出資した。2000 年、会社を非営利の財団に組織変更して資産を引き継いだ。ミラノ市の出捐はなし。

Q：世界とネットワークを持っている専門家の有無、稼働率は？

A：年 250 日稼働。7、8 月、クリスマスシーズンはイベントがない。従業員 700 人中外国人は 80 人で、世界 200 か国とネットワークを持っている。世界中に支店もある。

Q：ハノーバ、フランクフルトなど大規模見本市会場との競合の状況、ここ数年の株式会社の経営状況は？

A：競争が激しくなったがうまく調整しており、収入減はない。「環境」に関する見本市がフランクフルトでもあり、フィエラミラノとほぼ同じ内容である。客にとっては選択を迫られ、フランクフルトに流れることもあるかもしれないが、経営の悪化はない。

Q：展示スペースを大きくする予定は？

A：ない。

Q：国際会議の誘致、ミラノ中心地の見本市会場との連携は？

A：ミラノ市内の見本市会場はここと持ち主が一緒。会議については種類によってどちらの会場を使うか決める。5 千人規模の呼吸器の医学会議はミラノ中心地の見本市会場で行い、展示はこちらで。共同誘致もする。

Q：アドバンテージ、セールスポイントは？

A：①大きさ、②アクセスの良さ（地下鉄、ユーロスターの駅がある）、③サービスの質が高い。

Q：小さい部屋、大きな部屋どちらが重要？

A：何をするかによるが、主要ターゲットは家具の見本市であり、フレキシブルにどんなものにも対応できるように、大きながらんだらの中で仕切りをする。

Q：ミラノ家具展示は町全体でやっているイメージがあるが、都市のデザインにフィエラミラノがかかわっていることはあるのか？

A：市や運営会社は一切関与していない。各メーカーが自主的にやっている。

Q：新しい動きに対しての関与は？

A：新しいイベントは自発的。「デザインウィーク」というイベントも企業発。市はコーディネートをするが、イベントの計画はしない。

Q：客、出展者は海外、国内どちらが多い？

A：イベントによって全く違う、全体の平均値は取っていない。

Q：この会場しかない設備は？

A：特になし。

Q：今後必要となる設備は？

A：デジタルサービス、例えば、キャッシュレス決済サービス。物を運ぶ時に使うハ

イテク機器。各パビリオンを特徴づけるような設備。ちなみに、2018 年末までにすべてのパビリオンでソーラーシステムを導入し経費削減する予定。

Q：従業員 700 人の人件費総額は？

A：4500 万ユーロ。マンパワーが大切と考える。

### 【現地視察】

質疑応答の後、会議場、パビリオン等を視察した。パビリオンの建物は2階建てでそれぞれの階を2つに分割して使用できる。メインの通路は2階に設けられており、受付を済ませると1階を自由に移動できる構造となっている。そのため同じ時期に2つ以上の見本市を同時に行えるとのことであった。



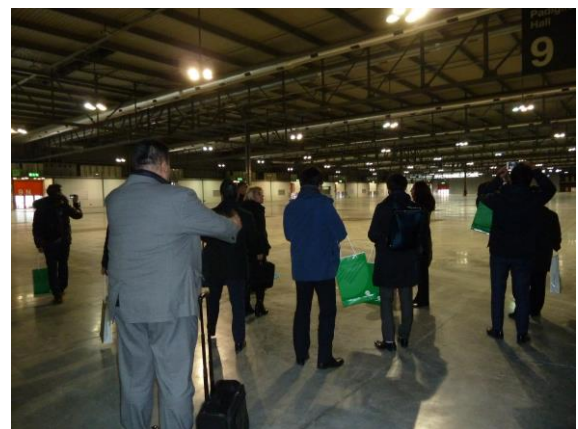
1008 名収容できる会議場。椅子の可動などフレキシブルな構造となっている。ライトがつり下げられるので照明を使ったイベントも可能。



メインの通路である「海の通路」。両翼 1.3 キロで動く歩道があり、地下鉄駅・駐車場とつながっている。ヨットの帆をイメージした特徴的デザインの屋根の建築費は、総工費の半分を占める。



出展者用の駐車場。各パビリオン付近に整備されている。このほか施設の外側に整備された来場者用も含めと1万5千台が駐車できる。後方に見える建物は建築家ドミニク・ペローによるホテル。



パビリオン。天井高 12m。様々なものを上からぶら下げられる構造。天井高がさらに 4 m 高いパビリオンもある。

## 【各会派の所感】

### 〔大阪維新の会〕

#### (施設)

フィエラミラノの特徴は、ヨーロッパの他の多くの見本市会場が時代の要請とともに増築を繰り返しながら面積を拡張してきたのに対し、建設計画の段階からフル規格の国際見本市会場として設計された点であり、会場全体を通して来場者、出展者のどちらに対してもシンプルで機能的な動線を有している。これはフィエラミラノがかつての石油コンビナートの跡地に広大な面積を確保できたことが主な要因であるが、機能面でフィエラミラノが他の見本市会場よりも質の高いサービスを提供できる強みを生み出している。

フィエラミラノの機能面における優れた特徴として具体的に3つの点があげられる。

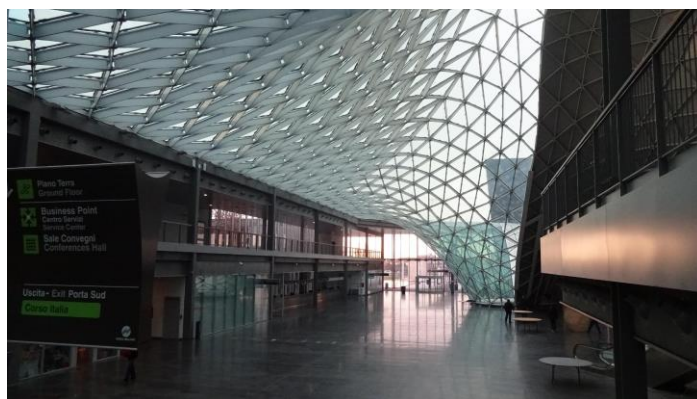
1. 来場者用駐車場を展示場の外側に配置し、それらと展示会場をつなぐメインのブリッジにムービングウォーク（前ページ右上の写真）を設置したことによって1万台規模の駐車場を整備しつつ来場者の移動時間を短縮している。なお、出展者用の駐車場は5000台を各展示場付近に小分けにして整備しており（前ページ左下の写真）、搬入動線の最短化、搬入時間の短縮化を図っている。
2. フィエラミラノ全体をメインの動線を境に4つのエリアに分割し、それぞれのエリアに独立した4つのレセプションを置くことで、複数のイベントを同時に4つまで開催することが可能である。また、4つのレセプションへの動線を完全に分離することで無用の混雑の解消を図っている。
3. フィエラミラノ全体を通してメイン動線を2階に配置し、建物1階にレセプションを設けることで、受付前の来場者が自由に行き来できるスペースと、受付を済ませた後の来場者の動線を完全に独立させている。

機能面の他にフィエラミラノの施設の大きな特徴として、屋根の美しさがあげられる。総工費の約50%を費やしたというヨットの帆をイメージした屋根は会場全体を貫く自由で開放的なイメージを演出しており、会場そのものがデザイン的に優れていることも、この施設を印象付け、またここを使いたいと思わせる重要な要素であると学ばせて頂いた。

また、フィエラミラノには展示場スペースのみならず、国際的な学会が開ける規模のカンファレンスルーム（前ページ左上の写真）も備えられておりイベント誘致にシナジー効果を発揮している。

#### (所見)

- ・フィエラミラノの強みはまず



フィエラミラノの屋根

何と言ってもその展示面積である。国際的な展示イベントは集積化、大規模化されてきており、十分な展示スペースの確保ができない会場では誘致競争を勝ちきることが難しくなっている。

フィエラミラノの巨大な展示スペース（W250 D80 H16 (m)）はどのような展示会にも対応できるよう照明を固定化せず、柱や壁なども一切存在しない。（3ページ右下の写真）この点はインテックス大阪との大きな違いである。

- ・フィエラミラノにはヨーロッパの広域鉄道であるユーロスターが直接乗り入れる駅があり、広域からの集客アクセスにも優れている。大阪で例えるなら展示会場が新大阪駅に直結しているようなイメージである。展示会は結局のところどれだけの人を呼んだかが成否のバロメーターとされるので、広域からのアクセスの良さはインテックス大阪にとって今後の課題と言える。将来的に夢洲に IR が立地することを想定すれば、関西国際空港や神戸空港から高速艇による乗り換えなしのアクセスで結ばれることなども検討するべきと考える。
- ・フィエラミラノの近傍には、フィエラミラノができる以前の展示会場としてミラノシティが存在している。本市において夢洲に新たな展示場を開業した場合、新展示場とインテックス大阪との位置関係に非常に似通った立地となるため、双方のシナジー効果についてフィエラミラノ社に尋ねたところ、学会などの会議系のイベントをミラノシティ、展示系のイベントをフィエラミラノでおこなうことが多いとの回答であった。フィエラミラノ社が実感しているシナジー効果としては、会議、展示、どちらにも優れた選択肢を提供できることはセールス上の強みとなっているとのことであった。本市において新展示場を開業した際インテックス大阪をどうするのかという問題について、継続運営、または廃止、という2極の議論に拘らず、機能を変更してシナジー効果を生み出すことも検討すべき選択肢であるということを確認することができた。
- ・フィエラミラノの今後の課題としては物流動線オートメーション化をあげておられた。この点についてはこれから新展示場を建設する予定の本市にアドバンテージがある。搬入出動線の短縮化、短時間化は展示側からすれば大きなセールスポイントであり、国際競争を勝ち上がっていく展示場となるためにも必要不可欠なテーマである。

#### [自由民主党・市民クラブ]

世界第3位の展示面積（屋内展示面積は約 35 万㎡、屋外展示面積は6 万㎡）を誇るフィエラミラノはミラノ万博跡地のすぐ西隣に位置する。年間約 250 日稼働し、65 のイベントが開催され（7、8月のバカンス、クリスマスの12月には、ほとんど開催されない）特に、4月開催の家具の見本市、9月開催の靴の見本市は世界最大級という。

確かに敷地面積も広く、展示会場の端から端までは、先が見えないほど遠くに感

じられた。世界3位の大コンベンションセンターの圧倒的なスケールに驚いた。それと同時に、広ければ良いのかという疑問もある。印象的だったのは、上海で完成される見本市が世界第2位となる規模だが、フィエラミラノは、交通アクセスの利便性、これまでのテクニック（ノウハウ）とサービスに絶対の自信がある。展示面積や規模の拡大をしなくても、優位性はこれからも変わらないというものであった。

今後の大阪に求められる MICE 施設は、世界のニーズ、日本のニーズをしっかりと分析しなければならない。大阪という観光資源や立地条件、京都と神戸と堺とのアクセスを考えると、展示面積以外でのメリットと優位性がある。

インテックス大阪を大規模改修するなど、既存施設を活用した MICE でも、十分に魅力的であると思う。

### 【公明党】

歴史的な建物の並ぶミラノ市を抜けた郊外にフィエラミラノがある。周辺は広々とした敷地、幾何学的なデザインのホテル、人工的な空間が広がる。

インバウンドの継続的な創出のためには国際見本市や国際会議の安定した誘致が効果的である。しかしインテックス大阪は国内的にも低迷。どこにその原因があるのか何が必要なのかを知るべく世界的国際見本市会場であるフィエラミラノを訪問。

まず目を引いたのはそのスタイリッシュで広々とした空間。中に入り説明を受ける。特に印象に残ったのは海外の見本市誘致の手法。

200 カ国とコミュニケーションが取れる人材を雇う。社員 700 名のうち 80 名が外国人で 外国からイベントを呼び寄せている。優秀な人材確保が大きな利益を生んでいる事が分かる。

セールスポイントを聞くと

- ①大きさ 屋内展示面積は 34.5 万㎡。これはインテックス大阪 7 万㎡の約 5 倍である。
- ②交通の便 地下鉄 私鉄 新幹線（ユーロスター）が止まる。
- ③サービスの質 ハイテクを駆使して常に向上を図っている。これからはキャッシュレス決済サービスやハイテク搬入システムを導入したいとの事。

パビリオンごとに特徴づける設備、このイベントに強いという特長が必要で高い天井と広い空間が大きな展示物の陳列（世界最大級の家具の見本市を毎年開催）を可能にしている。

場内を視察。会場は上下に分かれ、2階で受付が終われば1階に行けるシステムで同時に数会場が使用可能になるのが合理的である。

パビリオンの建物は2階建てで4つに分割して使用できる。パビリオンごとにレストランのようなスペースがあるのもホスピタリティが感じられた。

各パビリオンは1.3 キロの動く通路でつながりその先に駐車場と地下鉄駅がそれぞれあるので迷う心配はない。

フィエラミラノ社は長年のイベント運営の経験がありミラノ万博でもそのノウハウを提供したそうである。

見本市会場の国際的なスケール感、交通の便、実力ある誘致スタッフの確保、等々参考になる点が多くあった。

### **2015年ミラノ国際博覧会跡地**

次に、2015年ミラノ国際博覧会の跡地を訪問した。大阪市は2025年に万博誘致を目指しており、その参考に資するため、誘致の際の取り組みや跡地の利用方法などについて、アレクスポ(arexpo)の担当者から説明を聴取した。

※アレクスポ：万博会場の土地の購入や万博の運営を行った企業。現在は万博の跡地利用に力を尽くしており、跡地 100 万平方メートルの敷地の持ち主である。株主比率は国が 39.28%、ロンバルディア州が 21.05%、ミラノ市が 21.05%、フィエラミラノ財団が 16.8%、ミラノ県が 1.21%、ロー市（跡地所在市）が 0.61%。

#### **【説明概要】**

ミラノ万博は非常に成功したとっていいと思う。5月から10月までの開催期間中、2,100万人の来場者があった。イタリア・ミラノが世界レベルの文化を持っていると世界に証明できた。

#### **（誘致プロモーション手法）**

まず、どのようにしてミラノに誘致したかであるが、3つの期間に分けて説明すると、

第1の期間は、2006年から2008年の計画を立てる、誘致に向けて動き出す期間で、開催地決定に権利のあるすべての政府に対して働きかけた。

第2の期間は、2008年から2012年で、ミラノでの万博開催が決定された2008年以降、計画を具体的に作る期間である。この時期にミラノ万博はどのような形で、どのようなイベントを実施するか大まかな予定を決めた。この期間に万博を運営する企業が誕生した。

第3の期間は、2012年から2015年で、実際に計画したことを実現する期間。パビリオンの建設や参加国との会合等が行われた。

ミラノ万博の開催を勝ち取るには、外国はもとよりイタリア国民の賛成を得なければならないので、プロモーションは外国だけでなく自国民に対しても行わなければならない。そこで、イタリアの20州すべてを訪問し、意欲的に参加してもらえよう、各州が主役であると認識していただくことに力を尽くした。

また、誘致において重要だった点をあげると、

一つは、きちんとしたテーマを早い段階で作ることである。ミラノ万博は早い段階で「地球に食料を、生命にエネルギーを」とのテーマを設定した。

二つ目は、イタリア全ての関係組織（ミラノ市・ミラノ県・ロンバルディア州・国・協賛してスポンサーとなっていた企業）が万博に向けて一丸になったことが大事だった。

三つ目は会場である。会場の中心部にある1キロ半の長い通りをデクマノというが、ここに世界のすべての国のパビリオンを置くこととした。これによりすべての国が同等であり、主役であるという会場づくりに努めた。いままでの万博では貧しい国と富める国でパビリオンに差があることがみられたのが、今回はそうならないよう、1国でパビリオンがつかることができない国は、米の館やコーヒーの館、穀物の館などテーマごとに国が集まってクラスターの的にパビリオンをつくることとした。万博の歴史のなかで革新的な取り組みであったのではないかと思う。

もう一つの大事なことがクオリティを重視することである。貧しい国も食というテーマに沿ってクオリティを競うということに努めた。

万博を行った結果としてよかったと思うことは、ミラノ市民がミラノで万博を開催したことに誇りを持ったという感想が多かったことである。ミラノ市民だけでなくイタリア国民も、万博の運営に直接参加はしていないが、万博を開催したことに誇りをもったという意見を聞いたことは、大きな意味があった。

### （跡地利用）

万博後をあらかじめ考えて行動しないといけないと思う。万博を成功させることはもとより、会場の再利用の計画を考えることが大事となる。しかしながら、万博はテーマに沿って会場を作るので、その後違う利用を考えるのは非常に難しい問題である。再利用するにも長期で使えるような計画、方法を考えなければならない。

ミラノ万博では、跡地利用の構想を策定するのが遅く、万博が始まる前までに跡地利用の計画ができていなかった。あらかじめ計画する日本人と違ってイタリア人のDNAはやりながら変えていくというフレキシブルさがある。今回の計画もこのような形ですすめており、イタリアひいては世界の科学技術の中心となる公園にしようと考えている。この目標に向け、動き出しており、国・市・県・州が中心となり企業をパートナーに迎え計画の実現に向け進めている。この科学技術公園を長く利用できるよう、整備後100年以上の活用を検討している。

万博の後、跡地が再利用されずに放置された事例がある。ミラノ万博ではこうしたことにならないよう整備に努め、良好な状態を保っている。万博が終わった翌年、今年と、家族向けにくつろげるスペース、スポーツができるスペースの開放や、コンサートなどのイベントを行い、跡地が衰退しないように維持している。今年4月から10月までは公園として開放した。

新しいプロジェクトのテーマは、ポジティブなエネルギーを生み出すこと。人々



のエネルギーを活性化させることがプロジェクトの目的である。個人の企業、大学の研究室、ミラノ市と協力し、新しいエコシステムによる公園を作りたいと考えている。

この目的を達成するため、3つのプロジェクトを行う。

一つは、研究を行う病院をつくる。700人の医師、500人の研究者を雇い、500床のベッドを要する予定である。

二つ目は、国立ミラノ大学のキャンパスを持ってくる。そこで1万8,000人の学生が勉強する予定である。

三つ目は、企業が集まるヒューマンテクノポールという研究施設をつくる。10年間で15億ユーロの予算。ここではDNA関係の研究をする予定で、DNAが生活習慣、食べ物、環境の状況によってどう変わるのか研究していく。この研究は、イタリアだけでなく世界中から賞賛を浴び、興味を持たれている。世界の企業から研究所を置きたいとの要望がある（特に薬品系が多く、50の企業から要望がある）。

科学技術公園に変えるための5つの重要なポイントがある。

1つ目はアクセスである。跡地へのアクセスはマルペンサ空港から30分、トリノからユーロスターで45分、ローマから3時間、ミラノ中心地から地下鉄で20分。アクセスの便利さは万博開催時も開催後の再利用の際にも重要なファクターとなる。

2つ目はこの会場から60分以内に車で移動できる圏内に900万人が住んでいることである。ここの発展のために近辺に多くの人々が住むのは重要である。

3つ目は緑の地区を残すことである。人々にとって緑はなくてはならない存在。仕事だけでなくくつろぐ場、いろんな意味でいろんな人が利用できる場となる。

4つ目は運転手のいない電気自動車の人々が移動できる空間とすることである。公共交通と同様に有料の予定である。

5つ目は生活のクオリティをあげ、長く使えるものであることを計画の視野に入れることである。

スケジュールは、2017年12月22日にヒューマンテクノポールに入る予定の研究者が初めてここにやってくる。2018年6月までに公園のマスタープランが完成する。2019年1月に新しい公園に向けて、企業が入る建物の建設が始まる。2021年6月までに病院、ヒューマンテクノポールの建物ができる予定。2023年12月にはミラノ大学ができる。7～10年には計画のもと新しい公園ができる。

完成すると、スポーツなど余暇を楽しめるスペースが残るし、5～7万人の人がやってきて仕事をしたり勉強をしたりするようになると考えている。

## 【質疑応答】

Q：万博開催期間中の交通手段は？

A：地下鉄、私鉄、ユーロスター、タクシー、車。ただし、なるべく車で来場しないよう呼びかけた。地下鉄もユーロスターも会場の近くに駅がある。万博のために駅を作ったのではなく、見本市会場のために作っていた。20分離れたところに大きなパーキングを設けて無料の送迎バスも運行していた。

Q：行政が直接万博を運営するのではなく、アレクスポを設立した理由は？

A：アレクスポは国有地以外の個人の土地を買収するために 2011 年に設立された会社である。土地の買収は、2011 年以前から始めているが、国が直接働きかけるより、公の会社がする方がやりやすかった。万博の運営はエクスポという会社と共同で行っていた。

Q：計画に関するミラノ市議会の関与は？

A：ミラノ市は株主であり、すべての計画を承認する権限がある。議会もかかわっている。

Q：誘致に成功した最大の秘訣は？

A：万博誘致は当時のモラッティ市長の発案であり、ミラノ市の強い思いが外国に伝わったこと。「食」というテーマに魅力があったこと。食が今後生活していくうえでなくてはならないもので、食料が不足し、安全な食料を食べることができなくなるという不安感が世界にあった。そして、イタリアという国自体が魅力的であること。古い文化もあり、イタリアブランドのイメージがある。この3つが合わさって誘致成功に至ったのではないかと。また、ライバルはトルコのイズミールのみだった。2020 年万博のドバイは5か国が立候補しており、大変だったと思う。ドバイの成功は経済力もある。参加国に補助金を出すという誘致手法で成功したのかもしれない。ミラノと大阪を比べるのは難しいのかもしれない。

Q：大阪のライバルに対する率直な意見と大阪へのアドバイスは。

A：ミラノの成功は「食」というテーマが投票権のある国の心を打ったこと。イタリアはスローフードの国であり、食に関しては世界に定評がある。国のイメージとテーマが一致することが大事。大阪のテーマが大阪の文化や生活に密着したものであること。大阪ならではのテーマでプロモーションすることが大事。投票をするにあたって、国の力も大きいので国の協力を得て、大阪にしかできないテーマで開催すること。日本国も力を尽くすのが大事だ。ライバル国を考えるとキーになるのはアジアだと思う。アジアを前面に出してプロモーションするのがいいと思う。上海万博から15年後のアジアを訴えるのがいいのではないかと。

パリはオリンピックがあるから強敵ではないのではないかと。(※)パリは首都で、今までに数回やっている。BIE 本部がパリにあるのもマイナスに働くのではないかと。(※)視察後、フランスが万博誘致の立候補を取り下げるとの報道があった。

Q：アレクスポの職員構成と国立大学の誘致方法は？

A：職員はアレクスポとして求人・採用しており、市や州、国等の職員ではない。大阪が市の土地で開催するのはいいことだ。再利用の際に動きがとりやすい。我々はそこで苦勞した。イタリアの大学は国立かプライベートしかない。市立、県立はない。跡地はアレクスポの土地だが、話し方によっては、国の機関を誘致することはできる。

最後に、「In bocca al lupo」(「幸運を祈る」の意味)との言葉をいただき、視察

を終えた。



説明いただいたアレクスポの方々とともに（後方中央に見えるのが「生命の樹」）

## 【各会派の所感】

### 〔大阪維新の会〕

2015年開催のイタリアミラノ万博は、2,100万人の来場者を集めて成功裡に終わったとのことだった。そして万博終了後3年経った今年2018年の6月には跡地活用のマスタープランが完成、7年から10年かけて病院、大学、研究施設など、科学テクノロジーの拠点を作るべく計画を進めている。

今回の視察により、2025大阪万博の誘致と跡地活用を進めるうえで、何点か参考にできるところがあった。誘致の提案内容のうち、テーマやパビリオン設定などすでに提案書で固まっているところはここでは触れず、今後に活かしたいところを列挙していく。

#### 1. 誘致活動～国内機運の醸成～

誘致・開催の成功には、投票国だけでなく、自国民の支持を得るために積極的なプロモーションが必要であり、イタリアの20全ての州でプロモーションを展開することで、主役は一人ひとりであると意識してもらい、機運を高めたことが誘致に寄与し、さらに市民・国民が開催に満足感と誇りを持ったとのことだった。

今後、万博事務局による調査、11月の決定まで機運醸成の盛り上げを地元議会と

して一層進め、国、大阪府、協賛企業など、関係するすべての組織と一丸となって取り組んでいく。

## 2. 万全な交通アクセス対策

万博会場は、ミラノ中心地から地下鉄で 20 分と、アクセスの便利さは開催時はもちろん開催後も大きな成功要因とのことだった。大阪万博については、地下鉄中央線や JR 桜島線の延伸などが検討されており、大阪中心部からのアクセスは問題ないと思われる。

また、ミラノ万博の会場までは地下鉄、私鉄、ユーロスターと複数の鉄道があり、会場から 20 分ほど離れた駐車場から無料の送迎バスによるピストン輸送も行っており問題なかったとのことだった。

一方で大阪万博での課題の一つとして、周辺道路の慢性的な渋滞があり、高速道路の接続や会場手前の道路を 4 車線から 6 車線に拡幅したり、夢洲への自家用車の乗り入れを禁止し、来場者をシャトルバスで会場に送迎する方針を掲げているが現時点では十分といえない。

そのため、地下鉄や近隣からのバス輸送などのさらなる充実、また、例えば近隣の駅近くの駐車場に自家用車を停めて公共の交通機関を利用したり、夢洲の手前の高速出口近くに駐車場を作り、シャトルバスで会場に送迎する「パークアンドライド」への誘導施策実施など、多方面の交通アクセス対策をしっかりと立てなければならぬと実感した。

## 3. 万博後の跡地活用を見据えた計画策定～ミラノ万博を他山の石に～

ミラノ万博の跡地は現在は家族向けの公園利用やスポーツイベント、コンサートイベント等に開放されているとのことだったが、万博での知見を十分に活用されているように見えず、もったいないと感じた。万博開催前に跡地活用計画が出来ていないことで、知見を活かせないだけでなく、終了から 3 年近く経った 2018 年 6 月にマスタープラン完成、結果的に実現に 7 年から 10 年かかり、こうしたミラノ万博の教訓を他山の石とし、しっかり活用計画を立てなければならない。

現在、夢洲まちづくり構想案では跡地活用の方向性として、万博での知見を活用し、医療やスポーツ、食べ物等をテーマとした体験型・交流型の施設や、非日常を感じられるホテル等の滞在施設、生活の質を高める最先端技術の体験の場を検討している。

民間の企業立地を促せるような跡地利用を意識した提案を事前に計画し、大阪万博で健康医療にちなんだ最先端の実証実験を行い、万博後に展開できるような仕組みを残していくことで、企業が入ってきたくなるような提案を作っていく必要がある。

大阪・関西は健康の分野、ライフサイエンス分野の企業や研究拠点が集積する強みがある。さらに、食、スポーツ、医療など、健康に密接に関係する産業分野が多様かつ幅広く集積しており、知見を活かす計画が出来れば、大阪経済成長の起爆剤とな

ると確信している。

万博が単なるイベントで終わらず、将来にわたり豊かな大阪、日本に資する「いのち輝く未来社会のデザイン」作りとなるよう、会派としてもしっかり取り組んでいく。

### 【自由民主党・市民クラブ】

跡地活用について①病院の研究機関②国立ミラノ大学のキャンパス③ヒューマンテクノポール（科学研究センター）を設立予定ということだが、どれも予定という内容であり実際に現地を視察したが、本当にこの場所で実施できるのだろうかと思えた。

広大な敷地とアクセスの良さを、跡地活用を行う会社「AREXPO:アレクスポ」の職員から聞いた。確かに広大な敷地ではあるものの周辺は緑地が多く何も無い。この場所に上記の施設を誘致し、この地区に毎日5～7万人が訪れる予定と言うのには無理があるのではと思った。

ただ、ミラノ市のニーズが医療や先端技術にあり、新しい都市未来像をミラノが描いている意識の高さを感じた。ミラノ万博から3年しか経過していないので、10年後にどれだけ現実的な状態になっているのかを継続して注視しなければならないだろう。

万博を誘致する難しさと同時に、万博終了後に跡地をどう活用するのかという議論を、大阪でも現時点でしっかりと検討しなければならない。

大阪では夢洲（人工島）での開催予定だが、何よりミラノと決定的に違うのはアクセスである。国鉄・私鉄・車など、どれも優れた環境であったようだが、夢洲はアクセスに不安がある。しかも、コンテナ港があり今でも時間帯によってはかなりの渋滞が発生する。また、隣の舞洲には、大阪市域の約4分の1以上のゴミを処分する環境施設がある。さらにその隣には障がい者スポーツ施設がある。障がいをもつ子に「今日は渋滞しているから我慢してね」と説得できればいいが、実際にはかなり難しい場合もあるだろう。

大阪万博の誘致による経済の活性化や、新たな雇用の創出などには、たいへん意義があり積極的に取り組む必要があるものの、既存施設の利用を妨げてはならない。ましてや近隣住民の生活面で不便をかけるようなことになってはならない。アクセスというデメリットの解消をするには、根本的な取り組みを考えなければならない。

### 【公明党】

大阪万博誘致実現の為に何が大阪・日本に必要なのか前回の開催地であるミラノに学ぶべくミラノ国際博覧会跡地を訪問。

フィエラミラノより地下鉄駅を隔てて反対側に2015年ミラノ国際博覧会跡地がある。

会場を訪れてまず感じたのは「きれいだな」という事である。万博跡地といえば廃墟かもしくは工事現場のように思っていたが、道路も建物も状態が良く、いつでも使用可能な印象を受けた。

あとで話を聞くと跡地を再利用すべく万博翌年から家族向けスペースを整備し、スポーツイベントやコンサートなどを行い建物を活用して維持しているとの事である。

誘致にあたって大切なことは国内外へのプロモーション。まず 20 あるイタリアのすべての州を訪問し理解を深めた。また重要なのは①早くからテーマを絞る②国内全ての組織が一丸となる③会場の工夫の3点。③については1.5 kmのメイン通りにすべての国のパピリオンを平等に並べ財政力の違いで差がつかないように工夫。テーマごとのパピリオン、例えばお米をテーマにクラスター式で関係のある国を集めた、クオリティ面で経済的に弱い国もテーマからズレないように気遣った等々説明を受けた。

水面下での工夫を実際の会場を見ながら話を聞くと実感があり非常に参考になった。

万博を行った結果としてミラノ市民もイタリア国民も誇りを持つ事ができたとの話を聞き何としても大阪誘致を実現したいと思った。

市民・国民の満足感によってその後も会社が続き跡地利用の計画が進んでいる。

ズバリ万博誘致成功の秘訣を聞いた。

市長の強い思いがあった。テーマがイタリアの魅力を引き出すものであった。それとライバル少なかった。

テーマが国のイメージと合っていてそれが他国の評価を得たので、大阪とテーマが合うことが大事ではないか。票を獲得するにあたっては国の協力を得て大阪の文化や魅力を最大に活かす事だ。

キーワードはアジア。上海万博から15年ぶりのアジア開催を訴えるのが良いのではないか。パリはオリンピックが決まったし今まで7回も万博を開催している等々。

その他にも裏話もたくさん聞くことができて大いに参考になった。

## **ミラノ市議会**

次に、ミラノ市議会を親善訪問した。ベアトリーチェ・ウグッチョオーニ副議長をはじめミラノ市議会の方々とお会いし、友好関係を深めることができた。その後、議場を視察した。

### **【ウグッチョオーニ副議長 挨拶要旨】**

パラッツォ・マリーナ（市庁舎）の一番重要な部屋といわれているサラ・マーラ（ミラノ市の歴史における非常に重要な議長、サラ・マーラの名前をとった部屋）に皆様をお迎えでき嬉しく思う。皆様と姉妹都市提携を結ばせていただいていること、このまちで重要な万博跡地、見本市会場を見ていただけたことも嬉しく思う。

### 【木下団長 挨拶要旨】

本日は、ベアトリーチェ・ウグッチョオーニ副議長をはじめ皆様とお会いできたことを大変嬉しく思う。

大阪市とミラノ市は、1981年に姉妹都市提携を行い、これまで様々な分野で交流を深めてきた。そして、昨年めでたく35周年という記念すべき年を迎えることができ、これもひとえに、ミラノ市議会の皆様方をはじめミラノ市民、関係者の皆様方のご尽力の賜物であり、心から感謝申しあげる。

大阪市では、2025年に万博の誘致を目指している。本日の午前ミラノ万博の跡地を視察させていただいた。ミラノ万博開催時には市会から代表団を派遣させていただいた。大阪誘致に是非ともご支援とご協力をお願いする。



表敬訪問の様子。木下団長から万博の大阪誘致について協力を依頼した。

### 【意見交換要旨】

ミラノ市：いただいたお言葉感謝する。いままでもこれからも両市がよい関係が築いて行けると確信した。万博の誘致も実現も簡単なものではなかったが、それによってミラノにとっても、市民にとっても得たものが多かった。まちの発展にも役立った。まずは、誘致を勝ち取っていただくことが大事だが、その機会があれば大阪市の発展のために有効に活用していただきたい。万博の最重要責任者が現在ミラノ市長を務めており、彼の成功にも役立った。それほど大きなことだったことがわかると思う。姉妹都市という関係だけでなく、協力を深め、われわれの経験を活用して、成功できればと願っている。

万博を契機にまちをきれいにした。レオナルド・ダ・ヴィンチ像もきれいにした。ツーリストとしてまたお越しいただき、きれいなミラノのまちをご覧いただきたい。

大阪市：ミラノ市議会として大阪市と姉妹都市提携していることについてどう思うか。

ミラノ市：自慢である。大阪市を通して日本との絆を深めている。大阪市にもミラノ市にも長い歴史があり、違う歴史を持って何かを一緒にするというのはそれほど簡単なことではないが、そのおかげで、東日本大震災の後、福島の子どもをこちらに呼び寄せるなどのお手伝いをさせていただいた。大阪市と姉妹都市を提携していることで日本政府とも関係ができています。ありがたいと思っている。経済面でもお互いに一緒にできることを見つけて発展し

ていけると思っている。ほかの姉妹都市提携をしているまちとともに今後ともさらに絆を深めていけたらと思う。これからも気長に付き合っていたら。今後ともよろしく願います。

また、ミラノは日本食店が増えている。ミラノ万博のテーマが「食」。「食」はすべての人の基本、食卓を囲んで人と人が集う場、文化である。重要な交流の一つだと思う。



ウグッチョオーニ副議長とタペストリーの前で。意見交換後、記念品の交換を行った。

## 【各会派の所感】

### 〔大阪維新の会〕

#### ●ミラノ市議会副議長応接

市庁舎は、貴族の宮殿を活用していて、400年の歴史のある建物であった。絵画や彫刻、調度品は、その歴史を感じさせるものが、各室に配置されていた。

ペアトリーチェ・ウグッチョオーニ副議長が、この宮殿の貴族が生まれたという特別な部屋に通してくれ、そこにある大聖人のタペストリーがその特別さを象徴していた。

ミラノ市は、今回の視察に丁寧に対応してくれて、フィエラミラノという見本市会場と2015年に行われた万博会場跡地の活用に関する視察について、予め紹介準備をしてくれていた。

冒頭、大阪市会議員視察団を代表して、木下誠団長より、挨拶とこれまでの姉妹都市としてのお礼と、今回の視察でのご協力に感謝をした。

今回は表敬訪問であったので、突っ込んで質問することはなかったが、視察団より、これまでの大阪市との35年姉妹都市提携に関する感想を副議長に問うこととなった。

副議長は、東日本大震災の際に、大阪市を通して、支援したことなどの事例を挙げ、好意的にこれまでの友好協力関係を感謝してくれていた。

木下誠団長から大阪市が2025年の万博誘致に立候補していることから、ミラノ市においても協力をお願いをしたいとしたところ、快く承諾してくれた。

ミラノ市としての自信がうかがえて印象的だったのは、2015年のミラノ万博を通して、ミラノが世界レベルにあること、世界をリードする立場にあることをミラノ市民、ひいてはイタリア国民が自信を持ったとのことであった。

今回の表敬訪問で、大阪市とミラノ市のこれまでの友好関係による成果と、今後



も変わらぬ友好を再確認することができた。

ミラノ万博のお話を聞いて、大阪でも、ミラノ万博のように、大阪ひいては日本国民が自信を持てるような万博を目指すことによって、開催地に選ばれることができるであろうし、素晴らしい万博を開催できると思った次第である。

#### ●議場見学

ミラノ市議会の議場は、大阪市会と違って、氏名柱はなく、代わりに個人カードを差し込むことによって、液晶画面に議員名が表示されていたが、遠目には名前は確認できないものであった。

さらに、議員席と市長席や行政執行責任者の席には全員、ノートパソコンの一種、サーフェスがセットされ、ハイテク機器の導入が進んでいた。

議長の前に市長が座るような形で、強力な権限を持つ市長は前に座るようになっていた。大阪市とは違い市長の権限が、議会においても強大との説明がされていたことから、そのような座席配置になっていることもそれを表わしているのではないかと思う。

直前まで質疑が行われていたような感じで、議員席には書類が残されていた。歴史のある庁舎で、さまざまな議論が行われているのがうかがい知れた。

ミラノ市議会の議員定数を、60人から48人に削減したとのことであった。議員定数を自らの手で2割減らすことは、議会が機能している証拠だと思われた。

#### [自由民主党・市民クラブ]

歴史と伝統のあるミラノ市議会を見学した。あまりの荘厳な庁舎に圧倒された。

客間やいたるところに飾られた多数の絵画や写真・調度品から、歴代の市長や先人の議会議員への敬意の表れが想像できる。

この度、副議長や市議会の方々からミラノ市議会の歴史を聞くことができたが、どの議員もミラノ市への愛と情熱をヒシヒシと感ずることができるほど、熱心に話をしてくれた。通訳さんが困るほどだった。

庁舎は歴史的な建造物のせいか、あまりバリアフリー化されていない。車椅子や体の不自由な方には少し不便が生じるだろう。議場はたいへん立派な作りだが、思ったより狭く窮屈な感じがした。机上には、タブレット型パソコンのようなものが配置されていた。

#### [公明党]

ミラノ市議会訪問のためミラノ市庁舎（パラッツォ・マリーナ）を訪れて驚いた。「これが市庁舎か」歴史的な建造物と一目でわかる重厚な建物。ミラノの持つ歴史と文化の深さを感じる。ミラノはルネッサンス運動で活躍したレオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロゆかりの地域で、古来より文化・芸術の最先端。今もパリコレと

双璧をなすミラノコレクションを開催。などと考えていると一番重要な部屋であるサラ・マーラに案内された。

ミラノ市議会副議長はじめ市議会の方々と交流のひと時を持たせていただいた。

印象的であったのは大阪市と姉妹都市提携している事について「大阪市を通じて日本との絆を深めている」という副議長の言葉であった。

世界中で知らない人はいないであろうミラノ市がカウンターパートとして大阪市と姉妹都市提携しているという事実、大阪市を通して東日本大震災被災地の福島の子ども達を迎えた事を考えると自身の認識の浅さを反省した。今後もっと盛んに姉妹都市との交流を盛んにすることが大阪の都市格向上につながるし、また大阪の子どもや民間交流を大いに進めるべきであると感じた大変有意義な交流であった。